

青少年赤十字指導情報

Junior Red Cross

Information 2025

No.
173

巻頭
インタビュー
—
上白石 萌音
さん



青少年赤十字
学校教育に役立つ

明日から実践できる！

青少年赤十字への加盟登録のご希望は
全国の都道府県支部にご連絡ください。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society
人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社
公式アンバサダー

上白石 萌音さん

TVCMをはじめ、ポスターやリーフレット、キャンペーン特設サイト等で日本赤十字社の活動を広く伝える、日赤アンバサダーの上白石萌音さんからメッセージをいただきました。



Q1

赤十字にアンバサダーとして携わっていただく中で、特に印象に残っている、共感された赤十字の考えや活動は何ですか？

日本赤十字社の職員の方とお話をした時、「私たちにできることはなんですか」と伺ったら、「興味を持って、何かしたいと思ってくれることがまず何より嬉しい」とおっしゃいました。全ての出発点が、自分から「知りたい」「動きたい」と思うことなんだと改めて気付かされました。現場で活躍されている方のその一言が今も忘れられません。

Q2

さまざまな赤十字の活動に若いうちから関わることはどのような影響があると思いますか？

色々な人がいて、色々な暮らしがあることを知り、それを学校での勉強と結びつけて考えられるというのが素晴らしいことだと思います。自分から動いて得た知識や経験は、大人になってもしっかりと残ります。そして**学生のうちに身に付けた考え方は一生の宝物**だと感じます。

Q3

学生時代に先生から教わったことで印象に残っていることはありますか。また、それは今のご自身のお仕事やライフスタイルにどのように影響していますか。

相手の気持ちを想像すること。なるべく色々な角度から考えること。自分の言葉で話したり書いたりすること。質問したり間違えたりする勇気を持つこと。どれも学校で繰り返し言われることですが、**社会に出るとなかなかじっくり教えてもらえない、とても大切なこと**だったのだと気がきました。

Q4

学生のうちに経験してよかったと思うこと、学生のうちに経験しておけばよかったと思うことを教えてください。

私は中学一年生からこのお仕事をしていますが、学校行事や受験は全部しっかり経験できました。**学生のうちは、学生らしいことを思い切りしておくのが何よりも尊いこと**だと思います。勉強も、遊びも、人間関係も味わい尽くしてほしいです。その中に青少年赤十字活動があるというのはやはり素晴らしいことだと、皆さんを尊敬します。

Q5

青少年赤十字活動に携わる学生の皆さんにこれからどんな経験をしてほしいと思いますか。

暮らし方や考え方の違う人たちと沢山話をしてほしいなと思います。**ひとつの物事を見るときに、それを映すカメラを自分の中に何台も持っていること**はとても大切なことです。さまざまな角度から考えられる人でありたいと私もいつも心がけています。その意識を身に付けられるチャンスを目一杯使って、ぜひ優しさの連鎖を生んでください。

Q6

青少年赤十字の指導者である学校の先生方にエールをお願いします。

私の両親は教師なのですが、幼い頃から本当に色々な場所に連れていってくれました。**その時に目にしたもの、教えてくれたこと、一緒に考えたこと**は今もはっきりと覚えていますし、大人になるほど感謝が深まっています。本当に大変なお仕事だと存じますが、子どもたちの心に一生残る時間をつくってくださるのが先生方だと思っています。どうぞよろしくお願いします！

Profile

上白石 萌音(かみしらいし もね)
映画『舞妓はレディ』『君の名は。』、ドラマ『カムカムエヴリバディ』、舞台『千と千尋の神隠し』などに出演。歌手やナレーター、執筆業などでも幅広く活動。2024年には主演映画『夜明けのすべて』が公開され大きな話題に。

- 01 Special Message 巻頭インタビュー
日本赤十字社公式アンバサダー 上白石萌音さん
- 04 ゼロから学ぶ青少年赤十字活動
- 05 青少年赤十字を採用している学校の取り組みを紹介
日々の学校生活に
青少年赤十字をとり入れる!
- 07 各種研修や地域・世界と連携
全国事例紹介
- 11 子どもの主体性を高める夏の研修
リーダーシップ・トレーニング・センター
in 和歌山県
- 13 海外活動報告!
高校生青少年赤十字メンバー対談
オーストラリア・ベトナム・モンゴルでの夏休みの学び
- 15 今年度実施予定の各種研修・事業のご案内
- 17 学校で活用できる!
青少年赤十字教材・資料
- 18 「国際赤十字・赤新月運動館」に
ぜひご来場ください!
大阪・関西万博の紹介



1922年から100年以上
学校教育の場で展開される青少年赤十字。
本号では主体的な子どもたちを育成する
その活動や手法、魅力をお伝えします。



※本誌の内容は、原則として2025年3月31日時点のものです。

青少年赤十字は 気づき、考え、実行することができる子どもを育てます。



赤十字は、アンリー・デュナン（スイス人：第一回ノーベル平和賞受賞者）が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界191の国と地域に広がる赤十字・赤新月社のネットワークを生かして活動する組織です。そのうちの社である日本赤十字社が展開する青少年赤十字（Junior Red Cross：通称JRC）は、学校教育の場に組織され、学校・幼稚園の先生や保育所の保育士等が指導者となって、さまざまな活動の実践を通して全国で思いやりの心を持った子どもたちを育てています。

また、同じ理想を掲げ、実践している国内の学校やメンバー間はもちろん、海外の姉妹社の青少年赤十字メンバー（Red Cross Youth：通称RCY）同士の人、情報、物（国際親善アルバムなど）の交流も盛んに行われています。

加盟校数：1万4,416校 **メンバー数：343万683人**

※2024年3月31日現在

はじまり

第一次世界大戦時、カナダ、アメリカ、オーストラリア、イタリアの学校の生徒と先生は、戦争で苦しむヨーロッパの人々をなくさめ励ますため、赤十字を通じて手紙や包帯、被服、慰問品などを届けました。これがきっかけとなり、青少年赤十字が誕生しました。

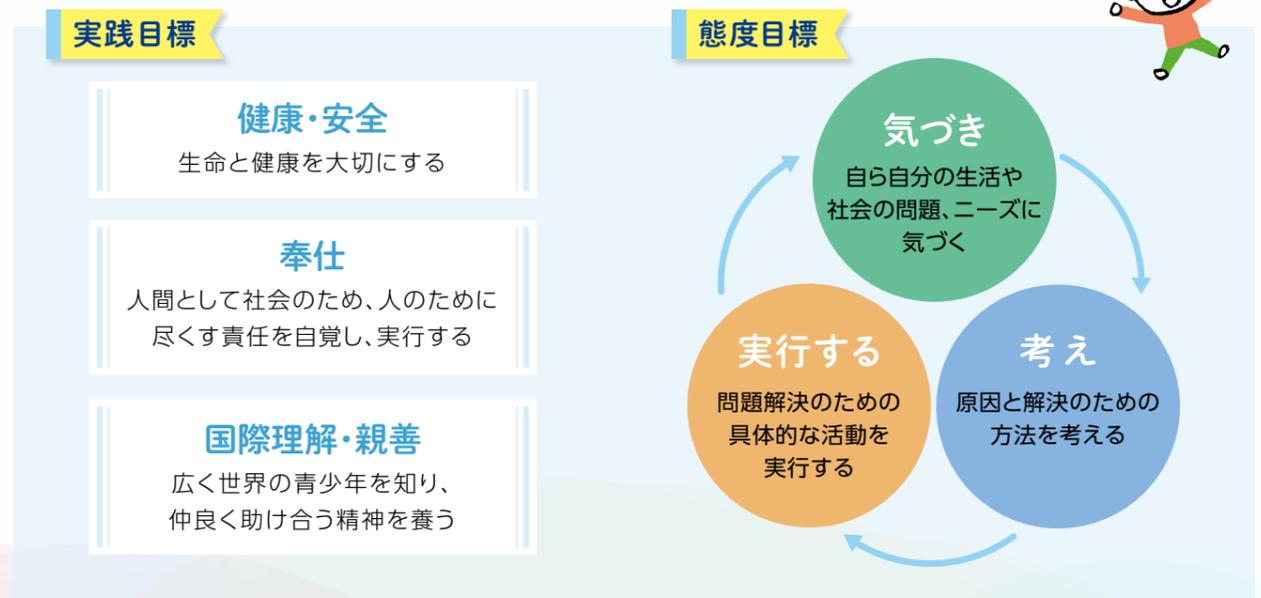
目的

赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活での実践活動を通じて児童・生徒が生命と健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的としています。

実践目標と態度目標



青少年赤十字では、その目的を達成するために具体的な目標を提示しています。それが「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」という3つの実践目標です。また、児童・生徒が自主的で自律した生活態度を養うために「気づき」「考え」「実行する」という態度目標を掲げています。



朝から
放課後まで!

日々の学校生活に

青少年赤十字

をとりいれる!

「子どもたちの良いところをたくさんみつけない」「自主性を育てたい」、青少年赤十字を学校教育活動にとりいれると、皆さんのその思いが叶うかもしれません。青少年赤十字を活用していることも園や学校でどんな取り組みが行われているか、全国の様子をのぞいてみましょう!



朝の活動を利用して、 生徒主導で復興支援の募金活動を実施!



長野県 上田西高等学校

JRC部と生徒会の生徒主導で、能登半島地震復興支援の募金活動を実施しました。これは、スポーツの大会などで交流のある北陸の人たちを支援したい、という生徒たちの思いから始まったものです。1月1日に発災、冬期休業中の1月5日に生徒会で集まって話し合うことで、3学期が始まってすぐの1月10日、11日に募金活動を実施することができました。登校時の校門で行いましたが、生徒、教職員だけでなく地域の人からの協力もあり、2日間で15万7,040円が集まりました。生徒たちは校外のつながりや社会に目を向けながらも、校内で自分たちができる活動にしっかり取り組むことができました。



子どもが主役の防災教育! 赤十字ボランティアによる豊かな学び



佐賀県 幼保連携型認定こども園 学校法人川副学園 博愛の里こども園

講師に赤十字防災ボランティアの方を招き、青少年赤十字の教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん」を用いた防災教育を実施しています。子どもたちは地震発生時の身の回りに潜む危険に気づき、自分自身と大切な人を守る方法を学びました。園では月に一度、避難訓練やオリジナルの資料で学習していますが、日本赤十字社の防災セミナーを使うことで、日常の中の危険な場所に園児が主体的に「気づき」、「自分で考え」、保育者や友だちと対話しながら「実行できる」豊かな学びになったと感じています。



校内活動 学級運営に生かせるV・S活動! 周りのためにできることを気づき、考え、実行する



栃木県 真岡市立西田井小学校

昭和24年から、全校生で青少年赤十字活動に取り組んでいます。授業や学級運営、異学年交流につながる「個人」「学級」「縦割り」という3つの単位でV・S(ボランティア・サービス)*活動を実施。「個人」では、常日頃から人、クラス、学校のためになる行動を考えてもらいます。「学級」では、学級活動の時間で学校のために何ができるかクラスごとに話し合います。あるクラスは皆が気持ちよく流しを使えるよう掃除しました。「縦割り」では、1年生と6年生が協力して校庭を使いやすくするため落ち葉掃きを実施しました。毎月15日前後には「よい子の日」を設け、委員会の児童が中心となり、校内全体で募金や使用済み切手の回収等を行っています。個人、学級、学校と視点を変えて、友だちと協力して自分が周りに対してできることを考え・実践する活動を通じ、子どもたちの自主性・自発性が育っています。



生徒の創意工夫で 学校でオリジナルSDGsを作成



富山県 南砺市立福光中学校

本校の環境ボランティア委員会は毎年目標を定め、年間活動計画を立てて活動しています。今年は「一人一人が意識的に行動し、ボランティア精神を高めよう」を目標としたところ、生徒自身から光中(みっちゅう)版SDGs「MTGs」の作成と、役目を終えた制服や体操服を回収しリサイクルする「制服回収ボランティア」が立案されました。「MTGs」では普段の学校生活を振り返り、学校生活とSDGsとの関わりを考えて「自分やまわりのものを大切にする」等の4つの行動目標を策定。特に「MTGs」を意識する期間を設けて帰りの会で達成状況の反省等を行いました。また3年生の総合的な学習の時間の一環では、牛乳パック回収を生徒からの呼びかけで、全校一斉に行いました。生徒の創意工夫を尊重した企画を行ったことで、主体的に活動する生徒が多くみられました。



「うちの学校でもなにかやってみよう」「こんな教材ないかな?」「もっと他の学校の例も知りたい」
などのご希望や質問はぜひ、お近くの都道府県支部にお問い合わせください!

*ボランティア・サービス…青少年赤十字におけるボランティア・サービスは、児童・生徒の自主性・自発性を育てる教育的な観点から相手の気持ちを理解し、自分の能力でできる限り貢献しようとする自発的な日常生活における実践活動を指します。



全国事例紹介

教師としてスキルアップしたい！

指導者に向けた養成講習会を開催

青少年赤十字の活動を指導する学校の先生に向けた養成講習会を全国で実施しています。令和5年度は34の都道府県でさまざまな研修会を実施し、2,000名以上の先生が参加しました。



FROM
鹿児島県

全国の先生と交流 フィードバックをもらい、学校での活動案作成

研修会は各地域だけでなく、全国的な規模で開催されるものもあります。その一つであるリーダーシップ・トレーニング・センター（P11-12参照、以下トレセン）指導者養成講習会（P15参照）には北は北海道から南は沖縄まで、校種も経験も違う先生が参加しており、トレセンの運営方法だけでなく、各学校のさまざまな事例を

学ぶことができます。プログラム終了後に自らが学校や地域で行う実践的な計画を立てる時間（通称ワークショップ）もあり、各自が5W1Hを意識した計画を立てた後、全国の先生からフィードバックをもらいながらブラッシュアップすることでさらに計画の実効性を高めていきます。

時間を忘れるほど熱中！ 講習で増えた仲間たちと、感じた成長

令和6年度の同講習会に参加した鹿児島県の田之上先生は、人と交流すること、新しいことを知るのが大好きな先生。これまでも指導者としてさまざまな研修、異年齢・異業種交流、海外との交流等に積極的に参加し、地元で青少年赤十字活動を日々推進していました。地元のトレセンでもスタッフを経験し、県の指導者講習会にも参加をしたことで、もっと青少年赤十字の「気づき・考え・実行する」の態度目標を学校で実践したいと思ったことから、この講習会に迷うことなく参加を決められました。

田之上先生の声



講習会で企画したワークショップでは「Happyちょボラ活動（=ちょっとしたボランティアをすること）」を考案し、講習会終了後に早速計画を実行しました。この活動では子どもたちと募金活動や学校内で研修会、コンタクトレンズやペットボトルのキャップの回収活動など、7つの活動を実践しています。

青少年赤十字委員や気づいた生徒が、休み時間に上を向いている水道の蛇口を1つ1つ下に下ろしている姿を思い出して考えたのですが、ほんのちょっとしたボランティアで周りの人を幸せにできる活動は素晴らしいと思いました。また、その活動を通して、生徒の変容を見ることも喜びであり楽しみです。

今後もさまざまな青少年赤十字の活動に生徒を参加させたり、「学校トレセン」にもチャレンジしたりして、生徒たちの「気づき・考え・実行する」自主性を引き出し、生徒の成長の糧になると思われることには、積極的に汗をかきたいです！

こんなことできるかな？ あんなことがしたい！ という皆さんのニーズにお応えする、青少年赤十字の全国の活動を見てみましょう！

子どもたちが自主的に行う活動を知りたい！

FROM
宮崎県

さまざまな分野で担当生徒が活躍する 高鍋高等学校

青少年赤十字の活動は「これをしなければいけない」と決まったものがあるのではなく、趣旨に共感した、各学校で自由に赤十字の教材やリソースを活用した子どもたちが、自主的に取り組むことを促しているのも特徴です。ここでは、子どもたちが積極的にさまざまな活動に取り組んでいる、宮崎県立高鍋高等学校の活動をご紹介します。

高鍋高等学校では日々、担当生徒を決めて献血、防災、救護、国際理解の4つの活動をしています。2年生が主体となりつつ、1年生とともに自分たちで担当や活動方針を話し合いで決定し、自主的な運営方式をとっていることが生徒たちの主体性を育む要素となっています。



校内のみならず町内の団体とも連携

校内では通常の部活動に加え、月に1回程度支部職員による講話や、救急法（けがの手当て、搬送等）の講習を行っています。学んだ救急法を生かして体育祭でも活動するほか、町内の社会福祉協議会やライオンズクラブ他の団体と連携した活動も実施。町内で献血が行われる際は街頭での献血の声掛けや、広報車に同乗して広報活動を行っています。活動日には、生徒たちが自主的に旗やバッジなどの準備を行い、参加メンバーで手分けして活動を進めています。自分たちで決めたことを自発的に行動し協力する姿勢が、長年の活動の継続につながっています。



顧問の先生の声

生徒の自主性を育むため、私たち顧問は、参加できる時に活動できる人で行うことを心掛けています。また、生徒たちの話を聞いたり、声を掛けたりして、できる限り楽しい気持ちで参加できるように支援しています。さらに、前顧問の渡辺幸一先生や日本赤十字社の方々が、「人々が協力し人道的な優しさや思いやりをもって、他者や地域に貢献する」という赤十字の考え方の素晴らしさを生徒たちに直接伝えてくださっていることも、生徒たちの活動への意識向上に大きく貢献しています。2022年に100周年を迎えた青少年赤十字にかかり、赤十字の尊い人命救助の灯をともし続けたいです。そして、この活動を通じて、生徒たちが自主性と責任感を身に付け、社会に貢献する人材として成長していくことを願っています。



地域と一緒に活動ってできる？

FROM
愛媛県



地域の防災力向上！ 「手つなぎ防災ひろば」

愛媛県では、地域と子どもたちが一体となって防災に取り組む「手つなぎ防災ひろば」が開催されています。この活動は、青少年赤十字加盟校や赤十字奉仕団、日本赤十字社愛媛県支部が協力して実施するもので、防災講座や非常食の調理、応急手当の練習などを通じて、世代を超えた交流と地域の絆を深めることを目指しています。

愛媛県内各地で開催され、約4時間のプログラムで構成。参加者は、赤十字の理念や活動に触れながら実践的な防災スキルを学びます。



ダンボールを使って ベッドやトイレを作成！

当日は地震などの災害について講義で学ぶだけでなく、実践的な講座も用意されます。地域の赤十字ボランティアの方の指導のもと、子どもたちは身近にある道具を使って、さまざまな防災グッズ作りに挑戦。ダンボールでベッドやトイレを、新聞紙でスリッパを作ったりして楽しみながら、災害時には普段使っている電気やガス、トイレ等の大切なものが使えなくなることや、平時から防災バッグなどを備えておく必要性について学びました。

ボランティアの

声

災害はいつ起こるかわかりません。だからこそ、いつもの暮らしの中に防災を取り入れることが大切だと思っています。

おおげさなことでなく「気づき」「考え」「行動」してもらえるように、1人でも多くの方が家族で防災について話し合い、普段使うものと同様に防災グッズについても考えてもらいたいと思っています。



参加者の

声

ぼくは、赤十字社の人話を聞いて、地震についての意識が変わりました。地震が起きた時のシミュレーションを見て、地震の強さと怖さ、そして準備の大切さを学んだからです。

これからは、いつ起こるかわからない地震に向けて、本棚やクローゼットを固定したり、防災バッグを用意したりして備えたいと思いました。



もっと世界のことが知りたい！

青少年赤十字海外支援事業(IYCP)～世界とつながる“生きた”教材～

青少年赤十字では世界191の国と地域に広がる赤十字の世界的なつながりから学ぶ機会を得られます。世界には異なる文化や社会的な背景を持ちながら、日本と同じように学校や地域で赤十字の活動をする子どもたちがいます。

IYCPって何？どんな事業なの？

青少年赤十字海外支援事業（International Youth Cooperation Project、通称：IYCP）は、日本と海外の子どもたちが相互に学びあう機会を提供する事業です。現在は大洋州の国バヌアツとアフリカの国ルワンダを支援しています。



バヌアツ



ルワンダ

皆が健康で安全に暮らせるように

世界で最も災害リスクが高い国の1つであるバヌアツでは学校での災害対策が進んでいなかったことから、防災意識の向上を目指す事業を行っています。子どもも地域の人も災害から自分の命を自分で守れるよう、学校での避難訓練の実施や救急法キットの配布等の支援を行っています。

ルワンダでは急激な経済成長を遂げている首都圏と農

村部で格差が生まれ、地方に住む子どもたちは栄養不足や、学校のトイレの不足等、衛生に関する問題が深刻化しています。赤十字ボランティアが学校の先生に栄養や衛生の正しい知識を教え、先生から子ども、そして各家庭へと伝わる仕組みをつくり、地域の皆が健康で安全に暮らせるように支援を行っています。

IYCPは皆さんの支援で実施しています

IYCPは、日本の青少年赤十字メンバーが、日頃のお小遣いの節約や募金活動で集めたお金（通称：1円玉募金）を事業の費用の一部としています。

ありがとうの 声



バヌアツ
ユースボランティア

この事業は私の人生をも変えてくれました。以前は災害への対応や救急法を知らず、人前で話す自信もありませんでしたが、この事業から多くのことを学びました。今は知識を学校や地域で共有し、防災啓発に日々力を尽くしています。1円玉募金による支援に感謝しています。

参加者の 声



福島県
松韻学園福島高等学校
青少年赤十字メンバー

1円玉募金で、気候変動など世界の状況に関心を持つようになりました。支援国の子どもたちには防災や衛生について知り、学んだことを家族や地域に広め、自分や身近な人の命を守ってほしいと願っています。私たちの募金によって助かる命、笑顔が増えます。一緒に1円玉募金を始めませんか？

学んでみよう、集めてみよう

日本赤十字社のホームページではこれまでの事業報告書などを公開しています。「もっと知りたい」「子どもたちと支援活動に参加してみたい」などご興味のある方はぜひホームページをご覧ください。世界の課題を知ったり現地の子どもの生活とつながったりする貴重な機会となります！





リーダーシップ・トレーニング・センター in 和歌山県

基礎データ

期間：令和6年8月8日(木)～8月9日(金)

場所：和歌山県紀北青少年の家

対象：県内の小学校・中学校・高等学校の
青少年赤十字メンバー

参加者数：103名

(小学校5,6年生85名、中学生6名、高校生12名)

毎年夏に全国で開催されるリーダーシップ・トレーニング・センター（通称：トレセン）では、集団生活と赤十字に関する知識・技術を集中的に学ぶ経験から、たくさんの子どもたちが大きな成長を遂げています。



青少年赤十字では、メンバー全員が進んで役割を持ち、ある時はリーダーに、またある時は協力者の立場を取ることができるようになるような「リーダーシップの取り方」を目指しています。トレセンはメンバーの自主性に任せ、合図や指示はしない・必要な情報の伝達は掲示板で行うV・S（ボランティア・サービス P5参照）活動や

先見に積極的に取り組む、といった方針のもと、全国で実施しています。都道府県ごとに運営の工夫や特徴があるのも魅力の一つです。

今回は小学校・中学校・高校すべての校種が参加し、運営に学校の先生だけでなく、大学生ボランティアも活躍している和歌山県の例を紹介します。

Homeroom

活動の基盤は小学校・中学校・高校の校種に関係なく編成されるホームルームです。

小学生は上級生の動きを真似し、中・高校生は自然と小学生のフォローをし、それぞれが役割を担うことで、とても良いチームワークが生まれていました。

2日目のメインプログラムはフィールドワークです。メンバーは、トレセンで学んだ知識と技術、培ってきたチームワークを生かしながら関所を回ります。関所ごとに出题される防災や赤十字に関するクイズに回答しながら力を合わせてゴールを目指しました。



Fieldwork

Event

掃除や食事をはじめ、朝のつどい、キャンプファイヤーなどのイベントも子どもたちによるV・S活動によって運営されます。24時間、生活のすべてが学びの場です。



トレセンタイムテーブル

Timetable

DAY 1



DAY 2



トレセンは主に加盟校の先生やボランティアの方々の協力で運営しています

先生の声



子どもたちにとって、知らない環境・人たちの中で意見を言えた成功体験や、1歩を踏み出せた事実は大きな自信になります。短い期間でも子ども自身が変わっていく姿を見られるのがトレセンの魅力です。若い先生にとっても、トレセンは学級経営に役立てられる魅力的な場だと思います。自分の受け持つクラス以外のさまざまな学校の子どもや先生と出会う、他の先生の子どもたちへの関わり方や指導方法、動きや姿勢を学べるからです。短い期間だからこそ、ちょっと勉強のつもりでぜひ参加して欲しいです。（加盟校の先生/今回のトレセンの運営長 土山先生）

参加者の声

トレセンに参加して、人の気持ちを考え、「気づき・考え・実行する」大切さがよくわかりました。さらに、友だちをいっぱいつくって視野を広げたり「人間性」を深めたりすることができました。赤十字は人を助けるだけでなく、その人の心も助ける団体だとわかりました。ぼくは、どんなに小さいことでも赤十字に協力したいです。（小学生）



ぼくはトレセンに参加して、1人で生きる大変さと、他人と関わる大切さを学びました。（小学生）

今まで私は人に流されて行動しがちな部分があったけれど、トレセンでは「自発的に行動する」を目標として生活したため、自主・自律の精神が身に付いたと思います。（高校生）



今回トレセンに初めて参加して、大学では得られない多くの経験ができました。学校や学年が混ざることによって指導の仕方も変わり、いろいろな先生の指導方法や他の学校の子どもたちの様子も見ることができました。また、先生方の「見守る姿勢」も学べ、自主的に動ける子を育てられるトレセンはとても魅力的だと感じました。大学を卒業した後もボランティア活動をしつつ、教員になった際は指導者としてまたトレセンに参加したいです。（将来教員を目指す大学生ボランティア）

参加のお問い合わせはこちらから！



高校生青少年赤十字 メンバー対談

オーストリア・ベトナム・モンゴルでの夏休みの学び

人道の心を持った若者の育成は世界各地の赤十字社でも行われています。取り組みの中には、さまざまな国や地域から参加者を募り、「国際理解・親善」を推進しているものもあります。昨年の夏に海外の赤十字社が主催した若手向けのサマーキャンプに参加した高校生メンバーが、キャンプで成長したこと、これからやってみたいことを教えてくださいました。



海外の赤十字ユースキャンプに参加しようと思った きっかけを教えてください！

清本さん：他国の文化を知ったり、自分たちの赤十字の活動を伝えたり、他国の赤十字への理解を深められたらいいな、という思いからキャンプに参加しました。

幼少期から英会話を習っていて、将来は英語に関わる仕事がしたいと思っているので、英語でのコミュニケーションを通じて赤十字と関わる人たちと交流し、視野を広げたいと思ったのもきっかけのひとつです。

神成さん：私は、世界の人たちと関わることに興味があったからです。将来は国際的に活動できる看護師を目指しているので、赤十字の海外派遣にも関心がありました。

最初はモンゴルのキャンプに応募したのですが落選。がっかりしていたところに、ベトナムのキャンプの話が舞い込んできて、英語をもっと勉強したいという気持ちが高まった時期でもあったので、応募して参加を決めました。



清本 楓乃音さん

栃木県立小山西高等学校2年
中学生の頃から社会貢献活動に興味を持ち、現在の高校へはJRC部の活動が盛んという理由で進学を決めたという。将来の夢は赤十字職員

自分の弱さを克服して
人間としての
成長を感じました

キャンプではどのような体験をして どのような成長を感じましたか？

神成さん：私はベトナムで3日間のキャンプに参加しました。グリーンボランティアという海洋汚染について学ぶもので、海岸掃除をしたり私たちに何ができるのかを議論したりして過ごしましたが、日本の研修とは違ってフランクなものでした。夜には各国の歌や踊りなどの文化を紹介す

Austria



2024年7月8日(月)～22日(月)、オーストリアのランゲンロイスでオーストリア赤十字社主催のサマーキャンプが開催され、17か国から約40名が参加した

Mongolia



モンゴル赤十字社は、2024年7月24日(水)～30日(火)にキャンプを開催。日本、中国(香港を含む)、韓国、モンゴルの計41名がモンゴル・ウランバートルに集まった

Vietnam



ベトナム赤十字社は、2024年8月13日(火)～15日(木)にベトナム・カインホアでユース・ボランティアキャンプを開催。10か国から約460名が参加した



る、カルチャーナイトというイベントが催されて、私たちが盆踊りを披露したところ他国の人も一緒に踊ってくれて盛り上がりました。

清本さん：私は2週間、オーストリアでのキャンプに参加しました。特に印象に残っているのは、やはり夜に開催されたナショナルパブという活動です。当番になった国の参加者が自国の料理をつくって振る舞うというイベントで、毎晩色々な国の料理を食べ、他国の文化を知ることができました。私たちはお好み焼きをつくったのですが、何度もおかわりをする人もいて嬉しかったです。

神成さん：コミュニケーション能力の高い人が多かったですよね。日本人はシャイでなかなか意見を言えませんが、他国の人は思いついたら間違いを恐れずにどんどん言うのには驚きました。アニメなど日本のことをみんな知っていて、私が知らない日本の文化を反対に教えられることもありました。言葉の壁で戸惑うこともありましたが、みんなの優しさに助けられて乗り切ることができ、知見を広げられるだけでなく友情にも恵まれ、とても有意義な3日間でした。

清本さん：私もコミュニケーション能力の差や、外国人のフランクさに圧倒されました。以前から友だちだった？というくらいみんな打ち解けてくれるのに、シャイなのもあり英語で話さなければならぬものもあり、最初は輪の中に入れず心が折れそうになってしまっ…。

でも、海外だからすぐ帰れるわけでもなく、何とか自分なりにモチベーションを維持して、後半は自分からコミュニケーションを取れるまでになりました。この経験で人間としての成長を感じましたし、今後色々なことに挑戦したいという意欲も湧いてきました。

キャンプでの経験を 今後どう生かしていきたいですか？

神成さん：キャンプで学んだ環境問題は、多くの人に伝えてこそ解決につながるものと思っているので、校内、県の高校生協議会でも発表させていただきましたが、今後も積極的に発信していきたいと考えています。高校卒業後は青年奉仕団に入り、将来は赤十字の病院で働くことも考えているので、今回のキャンプで幅広い視野や文化理解を深められたことは、大きな財産になりました。

これからも、青少年赤十字で培った5W1Hの考え方や計画を立てる力を強みとして、地域や国際社会に貢献できればと思っています。

清本さん：キャンプでは現地では感じられない空気感や、他国から見た日本を知ることができました。この貴重な経験を国際理解弁論大会や赤十字の報告会を通じて多くの人に伝え、次の国際貢献へのきっかけをつくりたいと思っています。

日本にいたるだけでは得られない経験である今回の交流



人々の優しさや
心づかいに助けられた
友情にも恵まれました



神成 梨花さん

埼玉県立常盤高等学校2年
高校入学後にJRC部の見学に行った際、活動の素晴らしさに心を打たれ、その日のうちに入部を決意。将来の夢は国際的に活躍できる看護師

や学びは、自分の成長を促し、視野を広げてくれ、赤十字職員として社会貢献や国際貢献ができる人になりたいとの思いが強くなりました。大学進学後も青年奉仕団活動を通じて学びを深め、自分の経験や知識を生かし、より良い社会の架け橋となれる存在を目指したいです。

モンゴルキャンプ参加者の声

気候変動や環境問題に関心があり、他の国の人たちとともに生活し、英語でコミュニケーションを試みることに魅力を感じて参加を決意しました。最初は英語が伝わらず悔しい思いをしましたが、ジェスチャーを使って自分の意志を伝える大切さを学び、積極的に発言するよう心がけました。



霜越 未来望さん
学習院女子高等学校2年

今回のキャンプを通じて、他国の赤十字活動について知ることができたので、それらを今後のボランティア活動に生かしたいと思っています。

指導教諭の声

指導者をしていると、赤十字がみんなと一瞬でつながれる、まるで世界の共通言語のように感じられます。初対面の人に物怖じしないこの対談の様子からも、キャンプの経験がまた1つ清本さんを成長させてくれたと思いました。



布川 裕美先生
栃木県立小山西高等学校
指導教諭

色々な体験をする子どもたちと出会えることで、私の教員生活もより豊かなものになっています。

〈ご案内〉

今年度実施予定の各種研修・事業

5月

青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング・センター 指導者養成講習会

時期 令和7年5月30日～6月1日開催(予定)

内容 主に夏に全国各地で実施されるトレセン(P11-12参照)で、中心となって指導できる先生を養成することを目的に開催しています。毎年50名前後の教職員等が東京に集まり、2泊3日の宿泊型のプログラムを通じて、青少年赤十字の考えや教材の活用法、トレセンの運営方法を学びます。また全国の先生同士で、日頃各地で実践するトレセンの事例や課題等を共有する情報交換の時間もあります。先生が児童・生徒の目線から、実際のトレセンのプログラムを体験し、意味を知ることができる講習として好評です。



7月

全国の校長先生たちが話し合う！ 全国指導者協議会・研修会

時期 令和7年7月上旬開催(予定)

内容 各都道府県には、加盟校の先生で組織された「青少年赤十字指導者協議会」があり、主に代表校の校長先生が会長を務めています。この協議会の全国の会長が一堂に会する場が全国指導者協議会です。例年、文部科学省初等中等教育局視学官をお招きした講演や、各地の活動報告、学校種にわかれて行うグループディスカッション等、1日を通して活発な議論が展開されます。全国の会長が青少年赤十字の最新の活動やさまざまな学校の状況や事例を知ること、各地の青少年赤十字活動のより一層の発展や普及促進につながることを期待されます。



11月

世界のユースが交流！ 青少年赤十字国際交流事業



動画でも事業の様子を
ご覧いただけます

時期 令和7年10月下旬～11月上旬開催(予定)

内容 令和7年は隔年開催の本事業の実施年です。アジア・大洋州地域で赤十字活動を行う16～20歳前後の若者を日本に招待しており、今年は約20の国と地域から40名前後が来日予定です。海外のメンバーは、加盟校訪問やホームステイなどで各地の青少年赤十字メンバーと交流を深める他、宿泊研修で社会課題に対し自分たちができることを考え議論します。宿泊研修には各都道府県を代表する高校生の青少年赤十字メンバーも参加します。「世界規模に視野が広がり、将来の自分の在り方を見つめ直すきっかけになった」「この出会いと経験を糧に、国際社会の一員として社会に貢献し続けていきたい」といった感想も終了後に寄せられる本事業は、議論だけでなく、共同生活や文化・活動発表などからも国際理解・親善の考え方を深められる絶好の機会です。赤十字の国際的なネットワークを生かした本事業へのご参加をお待ちしております。



3月

青少年赤十字スタディー・センター

時期 令和8年3月末開催(予定)

内容 本研修会は、青少年赤十字活動の中心となるリーダーの養成を目的として毎年開催しています。全国の代表として選ばれた80名前後の高校生メンバーが富士山のふもと、山中湖に集まって4泊5日寝食を共にしながらリーダーシップ・コミュニケーション等を学び、自分の地域でできるアクションプランを作成します。「最初はとても不安だったけれど、どんどん意見を出して主体的に動くみんなを見てインスピレーションを受けました。自分から考えて動くことの楽しさを知りました。」「アクションプラン作成から感じた自分の成長に驚いています。やればできるじゃん私！と思いました！」といった感想のように、本研修ではたくさんの高校生が自らの成長を実感しています。



ぜひご参加ください！



これらの研修のほかにも、各地域で指導者向けやメンバー向けのさまざまな行事を準備しています。詳細は、各都道府県支部にお問い合わせください。

各都道府県
支部連絡先は
こちらから



学校で活用できる！

青少年赤十字 教材・資料

青少年赤十字では、児童・生徒への指導の際に活用できる
さまざまな教材・資料を作成しています。

ぜひ、普通の学校教育活動等にお役立てください。



まずはここから！

せきじゅうじって、なんだろう？

アンリー・デュナンにより始まった赤十字について、読みやすく紹介した入門書

せきじゅうじって、なんだろう？ 53円



青少年赤十字のひみつ

子どもたちにも理解しやすいよう、青少年赤十字や日赤について漫画でまとめた冊子

※非売品



青少年赤十字 指導者手引き

青少年赤十字活動に関わる先生に向けて、活動の趣旨や運営の仕方について理解を深めるための手引き

青少年赤十字 指導者手引き 262円



ハートラちゃんといっしょ！

「赤十字」と「青少年赤十字」をわかりやすく解説した動画（東京都支部100周年記念作成動画）



YouTube

防災学習をやってみよう

ぼうさいまちがいさがしけんはっけん!教材

幼稚園・保育所の子どもたちと、災害時の危険（場所・行動）について学び、自分の身を守る基礎的な知識や判断力を身に付けてもらうための教材



青少年赤十字防災教育プログラム『まもるいのち ひろめるぼうさい』

自然災害に向き合ってきた日本赤十字社と現場の教員が提案する、授業ですぐ使える防災教材



赤十字の歴史を知りたい

赤十字WEBミュージアム

先人から受け継いだ赤十字の歴史的・文化的遺産の一部を、WEB上でご覧いただけます。特別企画「万博と赤十字」も公開中



ホームページでは他にもさまざまな資料を公開しています。



大阪・関西万博 2025.4.13-10.13

©Expo 2025

「国際赤十字・赤新月運動館」にぜひご来場ください！

～2005年の愛・地球博から20年。さらにパワーアップした赤十字の展示があなたを待っています～

赤十字は2025年大阪・関西万博に「国際赤十字・赤新月運動館」として参加します。今回は、事務局をつとめる日本赤十字社広報室 大阪・関西万博準備室の齊藤さんから、万博と赤十字の歴史的なつながり、今回の赤十字パビリオンのコンセプトをご紹介します。



●万博と赤十字～パリから愛知、そして大阪へ～

1863年に誕生した赤十字は1867年のパリ万博を赤十字運動の普及の好機と捉え、パビリオンを出展。以降、赤十字は継続して万博に参加してきました。日本赤十字社の創設者・佐野常民もパリ万博とその後のウィーン万博（1873年）に来場しており、そこで赤十字の理念に触れ、その後の日赤（前身の博愛社）の設立につながりました。約20年前の2005年に開催された愛・地球博にも赤十字はパビリオンを出展し、来場者は当初目標の3倍を超える47万人に達しています。このように万博は赤十字運動の普及に重要な舞台となり続けてきました。



●伝えたい想いは常に同じ～人間を救うのは、人間だ。The Power of Humanity～



これまででも、そしてこれからも赤十字が伝えたい想いはただ一つ「苦しんでいる人を救いたい」という人道の理念です。今回の赤十字パビリオンのテーマは、この人道理念を言い換えた「人間を救うのは、人間だ。The Power of Humanity」というもの。パビリオンの目玉であるドーム型シアターでは、さまざまな人道危機による人間の苦しみとこれに立ち向かう人々の姿を描くヒューマンストーリーを映像と音楽で演出。まさに「人間を救うのは、人間だ。」という共感を得ていただく内容を目指し、制作に努めてきました。命と尊厳を守るために自分には何ができるのか。一人でも多くの来場者の皆様にとって、赤十字パビリオンでの体験が、人道支援活動に一步をふみだしていただくきっかけになることを願っています。

大阪・関西万博2025・赤十字パビリオンについては、随時公式SNSで発信しています。



日赤特設ウェブサイト



<https://expo2025.jrc.or.jp/>



こちらもチェック！

赤十字情報プラザ 企画展
「万博と赤十字～日赤発祥の原点は万博にあり～」

会期 2024年10月1日から2025年10月30日まで
公開 事前予約制 火・水・木 10:00～16:30

WEBミュージアムも同時開催
<https://www.jrc.or.jp/webmuseum/>

\\ 読者アンケートにご協力ください! //

指導情報をより良くしていくために、ご感想・お気づきの点をお聞かせください。令和7年6月30日までにアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様に赤十字オリジナルグッズをプレゼントします。



スマートフォン
はこちらから

●URL

<https://forms.office.com/r/wQenM5i5TM>

青少年赤十字指導情報 No.173

Junior Red Cross Information 2025



※この指導情報は株式会社ゆで太郎システムによる「ゆで太郎夢基金」からのご寄付の一部が充てられています。

日本赤十字社 東京都港区芝大門1丁目1番3号

<https://www.jrc.or.jp/>